

第66回人権擁護大会シンポジウム第1分科会

参加
無料

今こそ、「生活保障法」の制定を！

～地域から創る、すべての人の“生存権”が保障される社会～

日時

2024年10月3日(木)

12時30分～18時 (受付11時30分)

場所

名古屋国際会議場センチュリーホール

名古屋市熱田区熱田西町1-1

地下鉄名城線「西高蔵駅」(2番出口)・

地下鉄名港線「日比野駅」(1番出口)から徒歩5分

リアル・オンライン併用

日本では、「生活保護だけは死んでも受けたくない」という忌避感や役所窓口の違法対応などのため、貧困とされる人の1割程度しか生活保護の利用にたどり着けていません。

自殺者の急増など生活に行きづまる人が絶えない今こそ、日弁連が提唱する「生活保障法」の制定が必要です。

シンポジウムでは、生活保護を積極的に活用している海外や国内の先進事例に学びながら、制度をどのように改善していけばよいのかを検討します。

是非奮ってご参加ください。

詳細はこちら



- ▶どなたでもご参加いただけます(事前申込み不要/手話通訳・要約筆記あり)。
- ▶オンライン視聴用 URL は、開催日近くに日弁連ウェブサイトに掲載します。

基調
講演

貧困と排除から、社会参加と相互承認へ！

——まっとうな生活保障のために



暉峻 淑子さん(埼玉大学名誉教授)

1928年生まれ。経済学者。「対話的研究会」主催。著書に「豊かさとは何か」、「承認をひらく—新・人権宣言」(いずれも岩波書店)など。



第1部

当事者の声

第2部

基調報告と海外・国内調査報告

第3部

パネルディスカッション

「すべての人の“生存権”を保障するために」

パネリスト

吉永 純さん(花園大学社会福祉学部教授)

福祉事務所 24年、ケースワーカー12年の経験を生かし、貧困と生活保護について研究。



吉永さん



布川さん

布川 日佐史さん(法政大学現代福祉学部教授)

公的扶助論担当。研究テーマは雇用政策と公的扶助の交錯に関する日独比較。

雨宮 処凜さん(作家・活動家)

フリーターなどを経て2000年、自伝的エッセイ「生き地獄天国」(太田出版)でデビュー。近著に「死なないノウハウ 独り身の「金欠」から「散骨」まで」(光文社)など。



雨宮さん



井手さん

井手 英策さん(慶應義塾大学経済学部教授)

専門は財政社会学。著書に「ベーシックサービス」(小学館)、「経済の時代の終焉」(岩波書店)など。

特別報告

メディアは生活保護をどう伝えるか

吉田 颯人さん(北日本放送報道局記者)

NNNドキュメント'24「半透明のわたし 生きる権利と生活保護」ディレクター。

